

わくわくチャレンジ講座

(敬称略)

市内の小・中学生から参加者を募り、さまざまな体験にチャレンジしています。参加した子どもたちは、学校・学年の垣根を越え、友だちの輪を広げていました。

おもしろ理科先生の実験

——偏光板で遊ぼう——

10月20日に、谷和原公民館で行った「おもしろ理科先生の実験」には市内の小学1〜3年生の子どもたち30人が参加しました。「偏光板」という特殊な器具を使って実験は行われました。偏光板を通してテレビやセロハンテープを見ると、それまで見えなかったものが見えてきたり、2枚重ねた偏光板の向きを変えると色の濃さが変化したりする不思議な実験に驚きの声をあげていました。



おもしろ理科先生の実験

レプリカを作るため、石こうを混ぜる段階になると、子どもたちの表情も真剣そのものになり、型に流し込む際には慎重に

東小3年 谷口 香織

今日は、わくわくチャレンジ講座でいろいろなことを知りました。たとえば、へん光板を使って、いろいろな角度で見るとちがっていたり、セロハンテープをはったものをへん光板にはさんで回すと、色が変わったりすることです。楽しかったです。

化石のレプリカを作ろう

11月17日に、伊奈公民館で行った「化石のレプリカを作ろう」には市内の小学生とその保護者の方たちが参加しました。

ミュージアムパーク茨城自然博物館からお越しいただいた先生から、本物の化石やそのレプリカ作りについて説明を受けました。子どもたちは、本物と区別がつかないほどそっくりに作られたレプリカにびっくりしていました。

レプリカを作るため、石こうを混ぜる段階になると、子どもたちの表情も真剣そのものになり、型に流し込む際には慎重に

行っていました。固まった後、型から石こうを外すのにひと苦労していました。上手にできたレプリカを見て満足な顔をしていました。

小絹小2年 松坂 梨沙子

さいしよは、レプリカがどういうものなのかわかりませんでした。でも、先生に教えてもらったのでわかりました。わたしはサメの「は」のレプリカを作りました。せつこうをながしこぶとき、「上手にできるかな」とふあんでした。でも、上手にできたのでよかったです。

豊小5年 滝本 ゆめ

レプリカを型から外すときに、とても難しかったです。でも、上手に外せたので、うれしかったです。家に帰ってから色をぬって、もっと化石っぽくしたいと思います。



化石のレプリカ作り

ボランティア養成講座

6月から10月にかけて「ボランティア養成講座」が行われました。子育て中のお父さんやお母さんをサポートすることを目的に企画されたこの講座に、6人の皆さんが参加されました。7回にわたって、ボランティアとしての心構えや子どもとの関わり方・救急救命など学んでいただきました。

《参加者の感想》

◎子育ての難しさ・楽しさを学ぶことができました。中でも、「子育ての現状と子どもの発達」「安全と事故防止」「子どもとの関わり方」はとても勉強になりました。

今回学んだことを地域の活動に役立てられればと思っております。

◎ただ子どもが好き、何かできることはないかしらという思いで参加させていただいた私ですが、何かをつかめたような気がし、嬉しい講座になりました。多面に繰り広げられた7回の講習会の中で、ときに子どもに返ったり、また、責任ある実年齢に戻ったりと忙しい日々でした。今後は活動の輪を広げたいと思います。



化石のレプリカ作り「上手にできたよ」



ボランティア養成講座  
救急救命の実習